



2022年度
ほけんだより 第4号
久宝まぶねこども園 992-2033
8月1日 発行

今夏、新型コロナウイルスの感染が拡大し、第6波を越える感染者数の報告に驚きの毎日です。全国的な広がりの中、園内でも感染の報告が増えていきます。体調が悪い場合の登園は控え、ご家庭で安静にお過ごしくださいますよう、感染予防に向けたご協力をお願いします。

これから真夏日や猛暑日が多くなり、更に熱中症への備えも必要となります。感染症への予防とこまめな水分補給を行い、暑い夏を健康に過ごしてほしいと思います。

とびひが増える季節です

とびひ（伝染性膿痂疹）は夏に多く見られます。虫に刺された跡を汚れた手でかきかすと細菌（ブドウ球菌など）が感染し、そこで繁殖します。初期に水ぼうがができますが、すぐに破れてじゅくじゅくした状態になります。その部分を触った手で別の場所を触ると、そこにもとびひが広がります。

家庭での手当て

- じゅくじゅくしている部分はガーゼで覆ってください。
- お風呂はシャワー程度にして、タオルも個別にしましょう。タオルを共有して感染することがあるからです。
- 完全に乾燥するまで感染力がありますから、乾燥するまではガーゼで覆い、プールは禁止になります。



主な症状

- 皮膚に小指のつめくらの水ぼうがができる
- 水ぶくれや、赤くじゅくじゅくした、ただれた状態になる
- 強いかゆみがある

感染力が強いため、医療機関を受診し、薬をもらってください



とびひについて

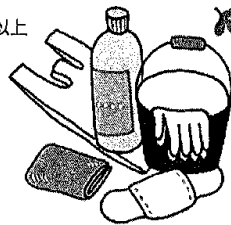
- 受診の際は園の意見証明書及び登園届を持参し、医療機関での記入をお願いします。今年度プール遊びはしませんが、水遊びを実施していますので、※プール・スイミングの入水許可日 月 日 の記入も忘れずお願いします。（病院での記入が難しい場合は園に要相談）
- ガーゼの予備を持参してください。
- ☆とびひの予防のため、爪を短く切り、かきむしらないようにしましょう。

知っておこう

おう吐物の処理

ポイント ウイルス性胃腸炎は、ノロウイルスやロタウイルスなどの感染によって起こります。家庭でも二次感染予防のために、おう吐物の処理にご留意ください。

- ① 窓を開けて使い捨ての手袋とマスクを着け、使い捨ての布などでおう吐物を周辺からふき取る。
- ② 次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）を薄めた消毒液で、おう吐物のあった部分を再度ふく。汚れた物はすべてポリ袋に入れ、消毒液をかけてから密封して捨てる。
- ③ おう吐物の付いた服は、85℃以上の熱湯に2分以上つけてから洗濯する。
- ④ さらに乾燥機にかけたり、アイロンをかけたりすると、熱に弱いノロウイルスは死滅しやすい。



ポイント 嘔吐のあとは・・・

吐き気が少し落ち着いてから経口補水液または母乳（ミルク）を飲ませましょう。スプーン1杯の水分から始めて3時間以上吐かなかったら自由に飲ませましょう。食事をとれるようになったら、経口補水液は終了しましょう。

8月7日は鼻の日

鼻はにおいをかくだけでなく、いろいろな動きをします。

呼吸をする

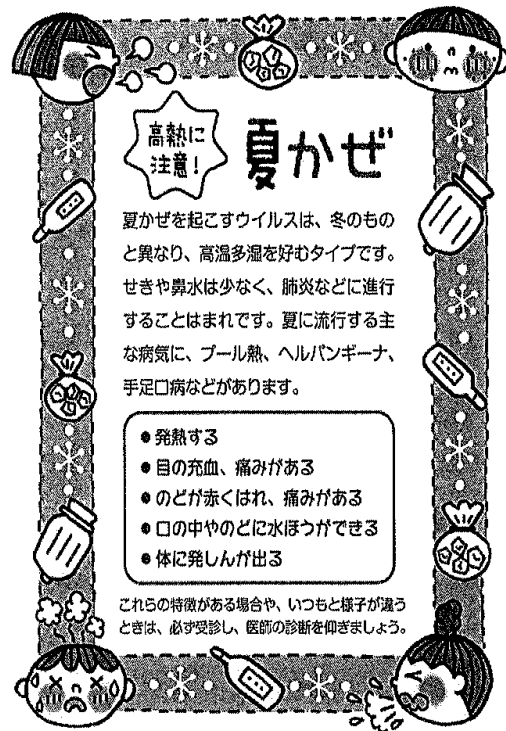
鼻の中に入った空気は温められて加湿され、鼻毛で汚れをきれいにしてから肺に送り込まれます。

においをかく

危険から身を守る動きがあるほか、においを楽しめます。

声の響きを調節

鼻がすっきり通っていると、声がきれいに響きます。



高熱に注意!

夏かぜ

夏かぜを起こすウイルスは、冬のものとは異なり、高温多湿を好むタイプです。せきや鼻水は少なく、肺炎などに進行することはまれです。夏に流行する主な病気は、プール熱、ヘルパンギーナ、手足口病などがあります。

- 発熱する
- 目の充血、痛みがある
- のどが赤くはれ、痛みがある
- 口の中やのどに水ぼうがができる
- 体に発しんが出る

これらの特徴がある場合や、いつもと様子が違うときは、必ず受診し、医師の診断を仰ぎましょう。

発熱のときは!

解熱後24時間以上が経過し、呼吸器症状が改善傾向となるまでお休みしてください。病院で受診し、感染症の検査をして陰性だった場合も同様です。



鼻血がでたときは!

鼻のつけ根を強めにつまみ、少し前かがみにして、5分間しっかり指でつまみます。子どもの鼻の血管は細いので、軽くぶついたり触ったりするだけでも鼻血は出ますが、鼻血が10分以上止まらない1日に何度も鼻血が出る、顔色が悪い等は、一度耳鼻科受診をお願いします。